

『Tプラス・ファミリーサポート』5周年記念誌

～育児支援活動の記録～

もっと輝きたいあなたの為に・・・
信頼できるあなたがいれば・・・



平成16年11月

はじめに

平成11年(1999年)4月からスタートした『Tプラス・ファミリーサポート』は、お蔭様で満5歳になりました。立ち上げた当初から今日まで、たくさんの方々にお世話になり、過渡期ではあるけれど色々な女性の生き方を垣間見ることが出来ました。ほかならぬこの私も、この5年間短いようではありますが、子供を持たせたおかげで様々な体験をし、必死で駆け抜けた気がします。近頃、この活動の記録をまとめたい、忘れてしまっていない！という思いがふつふつと沸いてきて、今回記念誌を出すことに致しました。無事故で今日まで頑張っておられる協力会員の皆さんに深く感謝いたします。また、様々な思いを胸に、私どもに大切なお子さんを託される依頼会員さんの努力と行動力に敬意を表します。立ち上げにお世話になった皆様に感謝の気持ちと共に報告と、子供を産もうか迷っているお母さん・子供を育てながらも一歩踏み出したお母さんたちに、とことん困ったらこんな方法もあるのかなと、安心していただきたいと思います。

『Tプラス・ファミリーサポート』の活動の概要

詳しくは募集要項・手引書をご請求ください

依頼会員：育児の援助を受けたい人

協力会員：育児の援助を行いたい人

具体的な援助活動の内容

- (1) 保育園・幼稚園の終了後、子供を預かること。
- (2) 保育園・幼稚園までの送迎を行うこと。
- (3) 学校の放課後、子供を預かること。
- (4) 仕事・介護・学習・自己実現等と育児の両立のために必要な援助
例：上の子の健診・行事、自分自身の通院・出産・美容院・セミナー・買い物など
- (5) 各種団体・行政が行う講演会において、主催者側から依頼を受け託児を行う。

* 子供を預かる場所は、基本的に協力会員の家庭となり、宿泊を伴わないとし、協力会員の家庭の時間が許す限り、対応します。

協力会員は、「ファミリーサポートセンター補償保険」に入ります。

料金：1,000円/時間 夜間・土・日・祝日・病児は1,200円/時間

(幼稚園以上は 850円/時間 1,050円/時間)

上記金額の20%を通信費・印刷費・研修会ほか経費として、事務局に納めます。

有償のボランティアとして、ご理解ください。

目 次

『Tプラス・ファミリーサポート』を立ち上げようと思った頃の想い	3p
1年目の活動(平成11年4月から平成12年3月)	4p
2年目の活動(平成12年4月から平成13年3月)	5p
3年目の活動(平成13年4月から平成14年3月)	5p
4年目の活動(平成14年4月から平成15年3月)	6p
5年目の活動(平成15年4月から平成16年3月)	6p
実績集計	7p
依頼会員さんの想い 柏原町Uさん・柏原町Sさん・氷上町Tさん	8p
協力会員さんの想い 氷上町Aさん・柏原町Kさん・氷上町Oさん	11p
将来の『Tプラス・ファミリーサポート』	14p
おわりに	15p
添付・・・活動報告書の一部をご紹介	



『Tプラス・ファミリーサポート』を立ち上げようと思った頃の想い 導いてくれた人

当時未就学児対象の子育て学習センターのサークルで「ももたろう」に入っていた。4歳と2歳の子供を連れて参加し、絵に描いたような主婦と母親を満喫していた。そのころ回覧で持ち帰った情報書類の中にイーブネットの活動記録があった。子供が寝た後読み返し、とてもうれしかったことを覚えている。近くに色々な活動をしている女性がいるのだ。そして、私の性格上いつまでも続きそうにないこの環境を、後ろめたい思いをせず、前向きに変えていききっかけになったのである。A先生・Yさん・Mさんありがとう。

ひょうごイーブネットで学んだこと

平成10年度丹波ブロックの市民研究員になった。テーマは「一少子化問題について一子育て応援団・ワッショイ！ワッショイ！」

丹波地域の少子高齢化の実態を調べ、理想の子供の数・たくさん産めないわけ・少子化の関心度・それをくい止めるための具体策ほか、1094件のアンケートを集約した。氷上郡ではエンゼルプランを策定するために準備に入っている町もあったようだが、それに先駆け、内容の濃い回答が多かった。特に紙面いっぱい、家事・育児・仕事の両立どころか疲れ果て、もって行き様のない思いを綴っている女性もあった。また今は対価のない専業主婦に納まるしかなく、外見の幸せとは裏腹な焦燥感をエッセイのように書いている人もあった。そして、小学生507人にもアンケートをとり、兄弟姉妹の数やもっと兄弟姉妹がほしいと親に言ったことがあるか、とも尋ねている。この頃私は自己紹介の原稿に、「輝きたい女性の手助けになるような事業がしたい」と書いている。

とにかくスタート

平成10年11月から12月(全6回講座)に県立女性センターにおいて、「女たちの仕事づくりセミナー」に通っている。この頃私は、何か始めたい・特に起業したいと思っていた。4歳と2歳の子供を連れて、幸い託児があったのでお世話になり、神戸まで1時間半かけて通った。私のみならず、赤ちゃんを連れてやってくる人もあって、大いに勇気付けられた。京阪神地方でかつ身近な発想から生まれたビジネスを展開している生の女性起業家と言われる人の講義は、現実的で夢があって、母親(?)女の葛藤も十分理解でき、擬似体験に陥ってしまうほどであった。(株)エムズ・ファーストの藤村道代さんの言葉は今でも忘れられない。「(成功は)自分で選択し続けること」・・・まさに選択と葛藤の日々をイヤと言うほど味わうことになった。このとき『Tプラス・ファミリーサポート』と名前を考え、子供の5歳の誕生日の平成11年2月25日から、4月1日のスタートに向けて、行動を起こすことに決めたのである。伊丹市のファミリーサポートセンターに教えてもらいに行き、実務的な資料をたくさん貰い、丹波風にアレンジして、マニュアルとチラシを作成した。告知・配布、保険の契約、新聞記事、協力会員の確保など、見えない何か大きな力に押されるように行動した。

とにかく大勢の人にお世話になった。感謝！感謝！どうしてみんなこんなに応援してくれるのだろうかと不思議な気がした。忙しかったが、期限を決めるのは大事なことで、とにかくスタートは出来た。

有償のボランティアと位置づけたわけ・・・

「女たちの仕事づくりセミナー」に続けて、平成11年6月から9月(全9回講座)に神戸市産業振興センターにおいてベンチャースクール(起業家支援セミナー)にも通っている。資金も欲しかったし、実務的な勉強もしたかった。ここでは、ビジネスプラン作成の実践に向けて、大いに絞られた。徹夜して何度も書き直した。どんな業界でも、ビジネスとして立ち上げ継続するには、こんな孤独を味わいながら、プランを練り上げるのだと、そして成功しなければ意味がないのだろうと、思い知らされた。そして、重要なことが判ったのである。『Tプラス・ファミリーサポート』はビジネスとしては成り立たない！

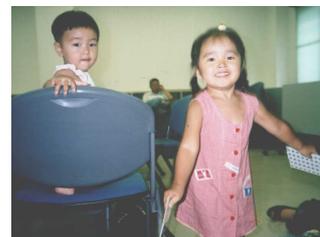
1年目の活動(平成11年4月から平成12年3月)

平成11年9月14日 第一回目の交流会 開催 丹波の森公苑にて

応援:丹波県民局

活動報告・意見交換を行う

(もちろん託児付き)



平成11年12月3日 「ボランティアフォーラム」パネルディスカッションに参加。丹波の森公苑にて。活動の紹介と女性の生き方の模索から、育児支援の必要を発表する。

井戸当事副知事との対談で「専門知識・技術と責任を持って行うボランティアは有償であるべき」と話した。

(右の女性は当時大変お世話になった県民局の大谷さん)



平成12年2月19日 ドリカムたんば:丹波の森夢ビジョン推進ネットワーク会議でワークショップを開く。テーマは「松田聖子ってかっこいい！？ したたかに、素敵にワーキングマザーしましょう！」9名で意見交換、「働きたくて働いたのではない(夫に死に別れた)」と自営業の女性、「職

場で自分の席に座っているのが一番落ち着く」と公務員の女性、私にお叱りの意見も・・・実に本音の充実した意見交換になった。

平成12年3月5日 総理府主催「男女共同参画ヤングリーダー会議」に参加した報告会
2月14・15日各都道府県から2名ずつおよそ100名の、各地域で活動している主に30代のネットワーカーの集いに参加させていただいた。勉強してきた内容を皆さんに報告。

平成11年4月から平成12年3月 氷上町児童育成計画(エンゼルプラン)策定委員
エンゼルプランの策定に関わる。民間で育児支援を展開している立場から、提案・情報を提供する。

2年目の活動(平成12年4月から平成13年3月)

平成13年4月1日 第二回目の交流会 開催 氷上町公民館
活動報告・意見交換・将来の夢を語り合う
(もちろん託児付き)



3年目の活動(平成13年4月から平成14年3月)

平成14年3月17日 3周年記念イベント『CAP(キャップ)学習会』開催
講師: ささやまCAP

ゆめタウンホップアップホール(もちろん託児付き)
大人ワークショップ・子供ワークショップ(1)幼稚園から小3・子供ワークショップ(2)小4から小6と3部構成にして実施。子供ワークショップを設けたのは氷上郡で初めて。

子供への暴力について正しい知識と子供を守る具体的な方法を学ぶ。子供は自分を大切にすることから身を守る技術を取得する。



4年目の活動(平成14年4月から平成15年3月)

平成14年10月18日 PTA移動学習講座『育てたように子は育つ』に協賛。

氷上郡教育委員会 教育長 辻 重五郎氏 の講演会に託児室を開設するように、主催者の氷上ライオンズクラブさんに申し入れ、ご理解いただき託児室を設ける。子育て中の保護者を多数動員。以後、慣例的に託児室の開設を実現してもらっている。

平成15年3月8日(土) 『氷上町ボランティア市民活動フォーラム』に馬場正一氏の基調講演の後、パネラーの一人として参加。

久しぶりに、私達の活動を発信できる機会を与えて頂いたものと考え、最近の活動の状況やこの不況の中、女性に求められているもの、かつ行政の施策の矛盾など発表。

その後谷水宅で、会員だけで手づくりカレーパーティー。もちろん子供も一緒。



5年目の活動(平成15年4月から平成16年3月)

記念誌を発行することに決める。1月から準備は始めたが、年度末に間に合わなかった。

寄稿して下さった会員さんに申し訳ない。「必ず出します！」

「創めるよりも続けることのほうがむずかしい」と起業家が言うらしい。実感・・・

実績集計

	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
協力会員 (名)	17	20	23	23	25
依頼会員 (名)	16	23	26	29	31
両方会員 (名)	2	2	2	2	2
活動件数 (件)	173	509	256	162	179
活動時間 (時間)	597.1	1032.8	733.3	492.9	580.7
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・協力会員宅 家庭内保育 ・依頼会員宅 家庭内保育 ・保育園 幼稚園等送り迎え ・講演会、イベント及びセミナー等の託児室保育 (丹波の森公苑・氷上町公民館・ホップアップホール・ライフピア市島・円応教 コープ西脇 他) ・ピアノ バレエ 体操教室の送り迎え及び付き添い ・ドーマン法トレーニングのお手伝い ・入院中の付き添い・発熱時の病院付き添い 				



依頼会員さんの思い 柏原町Uさん

ファミリーサポート事業5周年を迎えられ、おめでとうございます。

保育所の保護者会を通じて配られたプリントがファミリーサポートとの出会いでした。第3子を出産し、自営の飲食業を手伝うに当たり、どうしようと悩んでいた時のことでした。家族全員にそれぞれの持ち場があるため、最も忙しい時間帯に私が働くためには、子供を見てくださる方が必要でした。赤ちゃんのときはまだ良かったのですが、一人歩きを始めると目離しが出来ません。小学校2年生と幼稚園の上の子供たちには無理なことです。夜間と土曜・日曜日は公的な機関ではカバーできない時間帯でした。

安心して子供を預け、仕事に集中するため、ファミリーサポートへ1本の電話をかけました。早々に対面し、詳しい説明を聴きました。子供を預かって下さる協会員さんの家庭は安全面他、とても細やかな審査があり、安心して預けられる家庭が厳選されていることを知りました。私の自宅に近いこと、同年齢の子供さんがいない家庭ということで、K様宅をご紹介頂きました。あれは1才9ヶ月のころ、おしめがやっと取れたぐらいの時期でした。いつも笑顔で迎えて頂いたことや、登録者本人が無理なときでもご主人・おばあちゃん・娘さん・息子さんの誰かもが助けて下さいました。何よりも子供がK様宅へ行くのを楽しみにしていました。家族の一員として接していただいていたことがよくわかります。日中、保育園へ通うようになってからも夕方保育園へお迎えにも行っていただきました。出来る限りのことをマニュアル通りでなく（もちろんきちんとしたマニュアルはあります）、ケースバイケースで対応して下さいました。

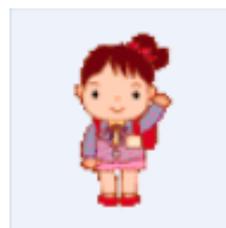
我が家にとっては、遠くの親戚よりも、近くのファミリーサポートでした。1ヶ月のうち24日預かって頂いた月もありました。子供を迎えに行ったときサインをして受け取る活動報告書は、ファイルがパンパンになるほどです。Kさんが書かれたK宅での様子を読み返すたびに、育児日記のようで、食事・睡眠・排泄などとてもよくわかる私の宝物です。

子供が日1日成長し、私も仕事を手伝ってくれるスタッフを同時進行で育成することにより、育児も仕事も余裕をもって出来るようになってきました。今では、子供が大きくなるにつれて、預ける日数も時間も減っていきました。早いもので、今春には小学1年生です。

利用するかどうかはおいといて、こんな方法もあるということを知って頂き、一番大変な時を乗り越えて頂けたらと思います。仕事も家事も子育てもベストを尽くしましょう！最後になりましたが、ファミリーサポート事業が益々発展されますことをお祈りしています。

平成16年2月吉日

旅館経営 柏原町 Uさん





依頼会員さんの思い 柏原町Sさん

早いもので、娘が初めて『Tプラス』にお世話になってから3年が過ぎました。今のように放課後の預かり保育や児童クラブなどもない頃で、それまで預かって頂いていた個人の方の都合が悪くなり、途方に暮れていたときでした。役場に相談しても窓口を色々回され、結局何の情報も得られなかった苦い経験があります。他の町にも電話をした際、氷上町役場で「町としてではないが、個人の方がされているので連絡先を教えます。」と、今の『Tプラス』を紹介されたのがきっかけです。

明日のことで困っていた私は、藁をもすがる思いで電話をしました。すると即OK!、すぐに家に来て頂き、手続きができ、協力会員さんにもお会いし、翌日娘は安心してその協力会員さんにお任せ出来ました。どうしたらいいかと困り果てていた私は、ホッと肩の力が抜け、涙が出そうになったのを覚えています。以来、対象年齢を過ぎ5年生になった今も、無理をお願いしてお世話になっています。

娘は協力会員さんのお子さんと仲良くなり、出会えるその時間をとても楽しみにしております。「〇〇ちゃんかわいい」「△△ちゃんこんな話をした」とその時のことを嬉しそうに報告してくれます。一人っ子で兄弟姉妹のいない娘は、妹や姉の気分を味わっているのかもしれませんが。送迎などでお世話になる時間は、私だけでなく娘にとっても貴重な時間です。

先日、依頼を受けた町のアンケートで、「子育てをする上で、今後行政としてどんなケアやサービスがあったらいいと思うか」という項目がありました。私は「欲しいのは特別なことではなく、ほんの少しのケアでいい。けれど、みんなが同じケアを同じように必要としているわけではない。ー保育時間外の保育・ちょっとそこまでの送迎・どうしても都合がつかない時だけの保育・・・『誰か助けて!』と助けを求めたときに、必要な手を差し伸べてくれるー そんなサービスが欲しい。今のところそれがかなうのは『Tプラス』だけ。」という趣旨のことを書きました。これが今の私の実感です。

両親共働き・鍵っ子の娘は、そのことを時折ぼやいております。0歳から保育園に預け、親として寂しい思いをさせてきた事への負い目があるのは事実です。でも、だからこそできた様々な経験や人との出会いは、それらを補って余りあるものであったし、これから生きてくるであろうと確信しています。

今までの我が家の生活は、たくさんの人たちの助けがあればこそ成り立ってきました。市島の保育園では朝も夕も延長して見ていただきました。1・2年生の時は帰宅後個人の方に預かっていただきました。その後は前述のように『Tプラス』でお世話になりました。支えて頂いたたくさんの方々感謝しつつ、いつか自分に少しでも時間の余裕が出来た時に、『Tプラス』の協力会員として困っている人のお手伝いが出来たらと思っています。

平成16年2月吉日

柏原町 公務員 Sさん

依頼会員さんの思い 氷上町Tさん

私が仕事を始めたのは上の子が5歳・下の子が3歳でした。いつまでもこうしてはいられない、何か始めたくて仕事をし始めたら次々仕事が出来てきて、知らないことが多すぎる・もっと経験を積みたい・磨きたいと思うと、子供と過ごす時間はどんどん少なくなっていきました。時間をお金で買うような気持ちで「ファミリーサポート」を利用しました。その頃私は30代の半ばですが、子育てが重要な時期であるのと同時に、女性の一生の中でも仕事を覚えるという点においては、40歳までにある程度習得しておかなければならない残りの数年間であると思っていました。

私の仕事は、日中の業務の他にお客様が休みの日や、ご主人様が仕事から帰られてから夜の打ち合わせが多いため、土曜日・日曜日にも出掛ける事が多く、帰宅時間は早くても7時半、深夜になることもありました。これが父親ならば、「仕事人間ね！」と社会からも妻からも渋々受け入れられるのかもしれませんが、母親の場合は、どうしてこう肩身が狭く、子供が不憫でならないのか・・・世の中の仕事を持つ女性でかつて母親であった人は皆、こんな思いをしてこの時期乗り切ったのだらうと自分を慰めました。子供がかわいそう・・・と周りから言われていただろうし、もちろん自分に言い聞かせながら、だからこそ、私は限られた時間内に実りのある仕事をしよう、限られた時間でも精一杯子供に愛を注ごうと思いました。

「ファミリーサポート」ではKさん・Aさん・Sさん・Iさんにお世話になりました。この頃は休日に私も夫も仕事だと言うと、子供のほうから「〇〇さんに預かってもらおうよ！」といったものです。夫も出張が多く、夜の会合などで子供が心配なときは、夕食を食べる時間に夜数時間だけとか、お風呂に入れてもらったり、保育園のお迎えにも毎日行ってもらいました。2人も預かってもらうとかなりの出費にはなりましたが、安心感と仕事への集中には代えられませんでした。協力会員さんたちは皆、私の代わりとして接してくださって、実に様々な状況にも対応していただきました。車を飛ばして迎えに行くと、「お疲れ様、お帰り。」と言ってもらい、後ろから子供たちがうれしそうに走って出てきます。ほっとして、「ありがとう、お世話になりました。」と心から感謝でいっぱいでした。

今は10歳と8歳になり、ほとんど自分のことは自分で出来るようになり、どうしても母親を必要とする心の領域も少し減ったようです。私の仕事も時間の調整がしやすい環境に変えて、小さな節目としました。振り返ると幼稚園の頃、久しぶりの休日に「ママがいるから胸が飛び出しそうにうれしい！」と上の男の子が言ったこと、仕事から帰ると2人とも園児服を着たままだまテレビの前で眠ってしまっていて、愛しくて包むようにして布団に入れたこと、車のバックミラーに「ママと一緒にいたい」とわんわん泣きながら追いかけてくる下の子をそのまま乗せて、仕事に連れて行ったこと、そんな気もないのに「ママ、仕事辞めようか？」と言うと「2人でなんとかやっとなるで」上の子が（我慢して）言った事など、もっとしっかり思い出して、何かに書き留めておかなければと思うほどです。反省や失敗は山のようにありますが、子供を持ったおかげで母親らしい喜びもたくさん味合

わせてもらっているのです。

価値観の表現は、愛を根底にして十人十色であり、どんな形でも誰も否定できないと思っています。この地域の女性は大部分が母親になり、性の特性から影の存在になる場合が多いように思えますが、私はこれを逆手に取って、強みに変えられることがやっと判ってきました。不本意でも受け入れざるを得ないことは、静かに受け止める・・・そして私は、一番つらい事にはまだぶつかってはいないと思うとき、おばあさんになっても自分が将来どうなりたいかと考えていたいと思っています。

平成16年3月吉日

建築士 Tさん



協力会員さんの思い 氷上町Aさん

私は今、一時預かり保育の『ファミリー・サポート』の協力会員として、活動させてもらっています。『ファミリー・サポート』は、谷水ゆかりさんが発起人となり、働くお母さんとその子供さんの支援をしているグループです。

当初、こんな活動があることを知ったとき、とても興味があり子供が大好きで、私も何らかの形で関わりたいと思いましたが、家庭の事情もあり、私には到底無理だろうと諦めていました。

そんなある日、主人がゆかりさんと知り合えたことから、そっと「私は子供が好きで、氷上町のボランティアに行ってきたんですよ。」とゆかりさんに話すと、「それだったら、『ただいま』と言えるおばちゃんの協力会員さんを今、捜しているんですよ!!」と言われ、私にも出来そうな気がしてきました。私も子供の頃には、『カギッ子』の時期があり、学校から帰っても誰もいないのに、鍵を開ける前には、いつもドアノブを「カチャッ・カチャッ」と回して、淋しい思いをしたことを思い出し、より一層お手伝いをしたいと思うようになりました。しかし、家族の承諾という大きな壁があるのでは?と不安に思っていたのですが、ゆかりさんとの出会いが主人からだったために、何とかOKが出ました。

自宅で店舗を構えているので、毎回家族に都合を聞いてから、サポートを引き受けることが多く、依頼会員さんやゆかりさんに即答が出来ずに、申し訳ないと反省しながらの活動です。私は〇〇ちゃんと△△ちゃん兄弟を、もう1人の協力会員と補い合ってサポートするのがメインでした。そのお子さんたちは思いやりがあり、聞き分けもよく、お母さんでもおばあちゃんでもない私と、うまく付き合ってくれました。その他のも何人かの子供さんをサポートしましたが、結局子供には『ファミリー・サポート』の趣旨のように、『ただいま』と言って帰れる家やおばちゃんが必要だという事と、<子供が好き>だけでは出来る事ではないと痛感しました。

毎日、心も身体も知能も大きく成長する時期に、こうして子供と関わるわけですから、責任も大きかったな・・・と今思っています。

平成16年3月吉日

氷上町 自営業 Yさん

協力会員さんの思い 柏原町Kさん

「かわいい〜！」子供は本当に愛すべき存在です。

そして、健康な心と体で成長してほしいと誰もが願っています。けれど、仕事・病気・介護などで、家族だけではどうしても子供を看られない時があります。

私の子育て中は、支援システムがほとんどなく、情報も乏しく、親も子供も泣きながら過ごしたことが何度あったでしょう・・・。「遠慮なく子供を預けられる所があればなあ・・・。」と願いながら、(自分の)子供には本当にかわいそうなことをしたと、今も思い出すと涙が出てきます。出来る事なら、その時間をやり直したいとずっと考えていました。そんな時に、『Tプラス・ファミリーサポート』の活動をしている谷水さんと知り合いました。それは、私の子育て中に、どうしてもあって欲しいと願っていた活動でした。

私は協力会員に登録して、家族ぐるみで大切な子供さんをお預かりするように心がけました。始めた当時は中学・高校・大学生だった三人の子供たち・仕事人間だった夫・義父を亡くしたばかりの義母、それぞれにストレスや淋しさを抱え、心にゆとりのない時期でした。我が家は「ワイワイ・ガヤガヤ」と賑やかな子守で、小さい子供さんが一人いるだけで笑い声の絶えない、とても楽しい時間が持てました。そうそう！義父の法事にお預かりしたこともありました。まるで家族の一人のように・・・。また、夫を亡くした両方の母を連れて、温泉旅行をしたときも一緒に行きました。懐かしい思い出です。

この活動を通して、私に子供さんを預けてくださるご両親も、その子供さんも、そして私の家族も、みんな安心し、職務を全うされて、心豊かな安らぎの時間を過ごしていると思います。また、そのことを実感できる私自身、思い残した子供との時間を取り戻したような気がしています。

高校生になった息子が、「保育園の先生になろうかな！」と将来の職業の一つとして考えるようになったことは、親としてとても喜ばしいことです。

今も、ケンちゃんと双子のあおいちゃん・みどりちゃんが宝物を持って、我が家に来てくれています。

平成16年2月吉日

柏原町 病院勤務 Kさん



協力会員さんの思い 氷上町Oさん

私がこのファミリーサポートの協力会員（預かる側）に登録して、4月でちょうど1年になります。私には小・中学生3人と3歳の子供がおり、子育て真っ只中なのですが、一番下の子供を連れて、活動をさせていただいております。

子供がどんどん大きくなるにつれ、4人がそれぞれ違う顔を見せたり、違った成長をしつつあり、これから先のこの子たちの長い生涯を1人ずつまっすぐに自分の足で歩んでもらう為に、今どうしてやればいいのか、今何を教えてやればいいのか考えてしまう瞬間が増えてきました。子供がその年齢にならないと分からない事、ぶつかってみないと分からない事がたくさんあります。講演だけではありませんが、子供たちの先を考えて、いろんな方向からのお話を聴いてみたいと思っています。

そんな時、講演に託児があれば安心して集中して聴く事が出来ます。また、習い事に行く・美容院や病院に行きたい・自分が病気になったときなど、小さい子供を連れては行きにくい所があります。子供を誰かに見て貰うにも、同居していない・同居していても頼みにくい遠慮・実家が遠い・・・色々な理由から、行動したくても出来ない場合があると思います。また、小さい子供を連れているという時期というのは、毎日、常に神経を張り巡らせて、心身ともにとっても疲れてしまいます。たまにはゆっくり自分をリラックスさせ、素になれる落ち着いた時間を作り、元気百倍で現実に戻る・・・贅沢かもしれませんが、こんなTプラスの利用もあっていいと思っています。

事前に詳しい登録さえしておけば、個人的に数時間だけ頼みたいとか、急なときだけなど、気楽に電話して利用してもらえればと思います。また、協力会員さんが少ないと聞いています。私のように子供を連れてでも活動できますし、孫育てをされている年代の方とも一緒に出来ればいいと思います。

平成16年3月吉日

氷上町 Oさん



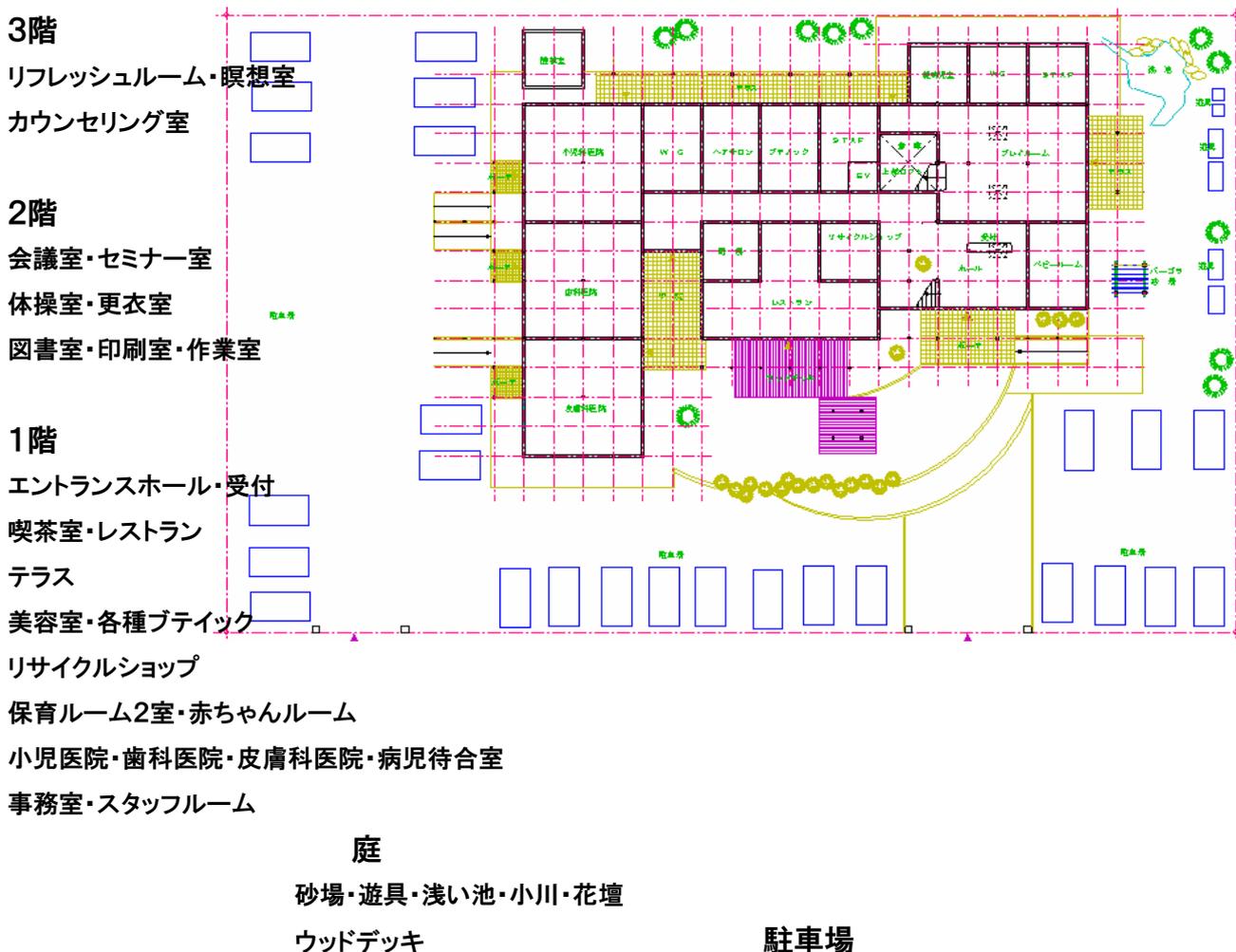
将来の『Tプラス・ファミリーサポート』

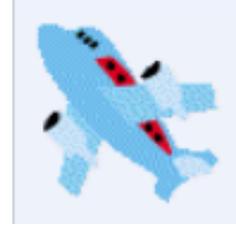
平成10年のおわりに、「女たちの仕事づくりセミナー」に通っている頃、『Tプラスの10年後・・・』として、将来像を書き上げています。夢は夢として、「不可能な家」のごとく(？笑い)、ここにご紹介し、さらに実現できるように頑張りたいと思います。

事業内容

- 1、ファミリーサポート事業
- 2、託児所
- 3、人材派遣業
- 4、キャリアアップ講座・セミナー企画
- 5、悩み相談・カウンセリング

『Tプラスハウス』 配置図兼1階平面図





おわりに

今は丹波でも、延長保育・学童保育・児童館など公的な支援も充実してきたようです。国の施策に従って、やっと一部の地域で実施されるようになって来ましたが、「ファミリーサポート」を利用される皆さんのお話を聞くと、内容はまだ少し不十分なようです。丹波は特に、超高齢化社会であるため、高齢者向けのサービスの向上が急がれていたために、育児支援に対する認識が甘く、おばあちゃんがいるじゃないか・・・と後回しになっていたようで、高齢化＝少子化であることを忘れてはならないのです。一昔前のお嫁さんたちは皆、ひとりで泣きながら滅私奉公をしてこられたお蔭で、家や子供あるいは地域を守ってこられたのだと思います。いまや女性の生き方に都会も田舎も関係なく、最低限の女性らしい協調と思いやりをもって、1人の人間個人として自立し、責任のある行動を求められる時代になりました。「ファミリーサポート」は、子供が大切な存在であることは大前提として、人がくつろいでいる時間帯も働く女性・世帯主として働かなくてはならない女性・さまざまな形で自己実現したい女性、みんな一生懸命頑張っている！こんなお母さんたちの努力を認めて理解し、特にお母さん立場にたつて、応援したいとっていました。活動を通して、まさに心の叫びとでもいうような相談もたくさんありました。登録だけして万事整えて、職務を全うしようとする人もあります。「一緒に頑張りましょう」この言葉を大切に使ってきました。私は「自己実現」という言葉をよく使います。「自己実現」しようとする本人もその周りのひとも、時々「わがまま・身勝手」と悪い意味に思い込まされておられる方もあるようですが、これは少し違うのです。夢や希望またはやりたいことがない人生なんて、つまらないじゃないですか！ましてやストレスのかたまりで、犠牲的な人生をすべて子供にぶつけて、果たして子供はしあわせだろうかと思うのです。自分はやりたい、できる・・・だけどできない、させてもらえない・・・こんな葛藤は皆さん山のようにお持ちでしょう。少し(人によって程度はさまざま)我慢してから、なぜできないのか、この人はどうしてダメだとか深く考えてみると、案外理由は単純であることが多いものです。それをふまえて、用意周到にしたかきに、やってみればいいのです。どんな想いも成功すれば、自分もうれしいばかりでなく、周りも認めざるを得ないでしょうし、失敗であれば、自分という人間をよく知る事ができます。そして次は別の方法でやってみればいいのです。第一、子供は親をよくよく見えています。クサクサ愚痴っぽいお母さんより、パタパタしていても明るいお母さんの方がいいに決まっていると思いませんか。(エラソウなことを言いますが、私にも言い聞かせているのです。)

また協力会員さんたちもこの趣旨をよく理解していただいて、それぞれの想いと環境の中で、活動のための時間を生み出し、大いに社会貢献していただいているのです。自ら保険に加入し、お金をいただくということは、無償とはまた違った責任があります。

これからも、このネットワークをもっと多くの人たちに知っていただき、地域ごとにコーディネーターを育成し、もっと輝きたい・いつも信頼される女性になるためのお手伝いをしていきます。記念誌にまとめて、また勇気がわいて来ました。ご意見ご感想等ありましたら、是非お寄せください。最後まで読んでいただいて、ありがとうございました。

添付・・・活動報告書の一部をご紹介

ファミリーサポートでは、3枚複写の活動報告書を作っています。活動(お預かりしている)間の子供さんの様子を協力会員が書き込み、お迎えの際、保護者に手渡し、サインをもらうことになっています。依頼会員・協力会員・事務局とそれぞれ共通の報告書を保管することになっています。「よく書く時間があったな・・・」と思うくらい、詳細で暖かい言葉で書かれており、全てを多くの方々に読んでいただきたいと思いますが、割愛して、数枚を次項に添付いたします。



お問い合わせ・ご意見・連絡先

Tプラス・ファミリーサポート

代表 谷水 ゆかり

兵庫県丹波市氷上町賀茂 1457 番地の 1

TEL/FAX 0795-82-8331

E-mail: yukari @t-plus.jp

